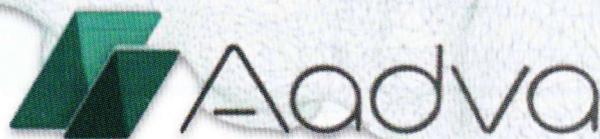


2016年1月17日(日) 10:00~17:00

GC

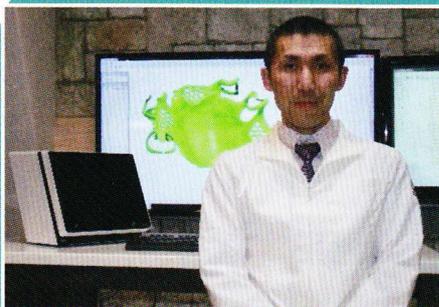
Aadva CAD/CAM講演会



CAD/CAMシステムとはどういうものか？何ができるのか？そしてこれからどうなっていくのか？
これらの疑問に対して機械・材料・臨床の観点からお話しさせていただきます。
すでにCAD/CAMを導入されている方、またご興味のある方、どなたでもお気軽にご参加ください。

10:10~11:40

『3Dプリンターを活用した アドバンチャーソフトの可能性』



木下 隆之先生
東京都品川区
株式会社 STLデザイン
代表取締役社長

アドバンチャーソフトの発売以来、CADを使用したデンチャーワークは増え3Dプリンターの活用法も徐々に確立されてきている。

そこで今回はデンチャーソフトと3Dプリンターの基本的な使用説明に加え、これまでメタルフレームの製作を見送っていたクラウンブリッジラボの方でも、新たに義歯専用の設備を増やす事も最小限で比較的簡単にメタルフレームを製作できる方法を紹介したい。

12:45~14:15

『ジルコニアフレームを用いた インプラント上部構造の優位性と課題』



辻 貴裕先生
大阪市
dental BiOVISION株式会社
代表取締役

デンタルデジタルテクノロジーの急速な進化によりCAD/CAM加工材料としてジルコニアセラミックは広く臨床に応用されるようになった。ジルコニア材質特性として審美面、強度面、加工面で優位性は高く、今や天然歯補綴からインプラント上部構造補綴にまで幅広く用いられている。

今回はAadvaLabScanを使用してスキャンから設計をおこなったジルコニアフレームによるスクルー固定式上部構造症例を工程ごとの注意点と、インシタル陶材とラスターペーストを用いてどのように色調再現しているのかを紹介したい。

14:30~16:00

『通信時代を見据えたCAD/CAM活用法』



高崎 卓治先生
吹田市
株式会社 高崎デンタルラボラトリー
代表取締役社長

歯科のデジタル化が急速に進んでいるのは周知の事実である。
ラボスキャナ発売当初と比較すると、製作出来る症例領域や材料も拡大しており、ラボにとってCAD/CAMシステムは日常臨床で必要不可欠な機器になっている。
昨今ではCT撮影したDicomデータと口腔内スキャナを使用したSTLデータを統括させることにより骨状態と最終補綴物のデザインを専用ソフトで確認することができ、インプラント埋入ポジションを設定し、サージカルガイドを製作する事が可能になっている。
さらに口腔内スキャナを使用したインプラント印象も実現化してきている。
今後のCAD/CAMシステムの展望を踏まえ、その活用法や最新の材料を紹介したい。